

## 同志社大学「次世代研究者」プロフィール

2023年6月現在

基本情報					
フリガナ 氏名	ヤギ 八木	トモキ 智生	生年	1993年	
氏名(英字)	YAGI	Tomoki	メールアドレス	toyagi(a)mail.doshisha.ac.jp	
学歴	2012年4月 同志社大学文学部国文学科 入学 2016年3月 同志社大学文学部国文学科 卒業 2016年4月 同志社大学大学院文学研究科国文学専攻博士課程(前期課程) 入学 2018年3月 同志社大学大学院文学研究科国文学専攻博士課程(前期課程) 修了 2018年4月 同志社大学大学院文学研究科国文学専攻博士課程(後期課程) 入学 2023年3月 同志社大学大学院文学研究科国文学専攻博士課程(後期課程) 修了				
職歴	2016年-2020年 同志社大学文学部 ティーチングアシスタント 2018年-2020年 同志社大学文学研究科 ティーチングアシスタント 2021年4月-2023年3月 龍谷大学付属平安高等学校・中学校 非常勤講師 2021年11月-現在 京都芸術大学 非常勤講師 2023年4月-現在 同志社大学研究開発推進機構及び文学部 特別任用助手				
指導教員	山田和人教授	取得学位	博士(国文学)	専修外国語・読解可能な外国語	英語
研究活動					
研究分野	国文学・民俗芸能				
科研究分類による研究分野	歴史学、考古学、博物館学およびその関連分野				
研究テーマ	近世における壬生狂言の展開				
研究概要	壬生狂言は、壬生寺で演じられる民俗芸能である。大念仏という宗教行事の一環として位置づけられており、無言劇であることを最大の特徴とする。これまでの壬生狂言研究は、原初期(室町時代)を対象とし、その宗教性に注目していた。本研究では、壬生狂言が芸能としてもっとも発展した近世を中心に、その歴史的環境や演目の制作過程を考察する。さらに、壬生狂言が持つ芸能としての娯楽性に注目することで、より近世の実態に即した研究を目指す。芸能における宗教性と娯楽性の関係や、宗教において芸能がいかなる意味を持つのか、という問題の解明にも貢献することができる。				
研究業績	【研究論文】 ・八木智生「壬生狂言「紅葉狩」「花盗人」の成立」(『藝能史研究』225、2019年4月、pp.16~31、査読有) ・八木智生「壬生狂言の地獄劇」(『同志社国文学』92、2020年3月、pp.186~197、査読有) ・八木智生「『洛西壬生寺畧縁記』の典拠と成立時期」(『文化學年報』70、2021年3月、pp.35~61、査読有) ・八木智生「天明の大火と壬生狂言」(『藝能史研究』236、2022年1月、pp.16~37、査読有) ・八木智生「逸翁本『大江山絵詞』の独自性―頼光と保昌のコントラスト―」(日本古典文学研究会編『日本古典文学の研究』新典社、2021年) など 【口頭発表】 ・八木智生「壬生狂言「炮烙割」と民間信仰」(日本文化研究会(於神戸女子大学)、2018年6月) ・八木智生「壬生狂言における地獄」(寺社縁起研究会例会(於京都精華大学)、2018年11月) ・八木智生「『壬生寺縁起』二太刀説話考―本文表現にみる時代背景と信仰―」(説話・伝承学会大会(於同志社大学)、2020年1月) など 業績一覧は、researchmap( <a href="https://researchmap.jp/YAGI_Tomoki">https://researchmap.jp/YAGI_Tomoki</a> )をご覧ください。				
所属学会	説話・伝承学会、関西軍記物語研究会、日本近世文学会、藝能史研究会、仏教文学会				
キャリア関連					
志望進路	教員(大学・高校等)、研究員				
進路					
自己PR	壬生狂言は、大念仏という宗教行事を出発点としていますが、近世には教導を目的とする演目のみならず、娯楽的な演目が制作されています。また、近世の史料によれば、観客は壬生狂言を演劇として楽しむと同時に、利益をも期待していたことがわかります。壬生狂言がどのように発展し現代まで受け継がれてきたかという過程と、そこに内在する宗教性と娯楽性との相互関係を紐解くべく、様々な観点から研究を進めていきたいと思っています。また、演目の背景にある、縁起やお伽草子、他芸能についても視野を広げていく予定です。				
取得資格等	国語科教員免許(中・高)、学芸員資格、図書館司書、学校図書館司書教諭				

※メールアドレスの(a)は@を表しています